

市民参画型道路計画プロセスの導入について

1. 現状

これまで、計画の構想については、行政のみで検討し決定してきたところ。

都市計画決定手続きにおいて、計画の必要性等の広域的、公益的な内容と、個別の利害調整に関わる議論が混在し、これによる混乱が計画決定を遅延。

意見反映方法など市民参画プロセスが不明確であることも、コミュニケーション不足や合意形成上の混乱の要因に。

これら課題に対処すべく、平成 13 年 9 月に「道路計画合意形成研究会」を設置し、同年 10 月に市民参画 (PI/パブリックインボルブメント) を導入した道路計画プロセスに関する提言をいただいたところ。

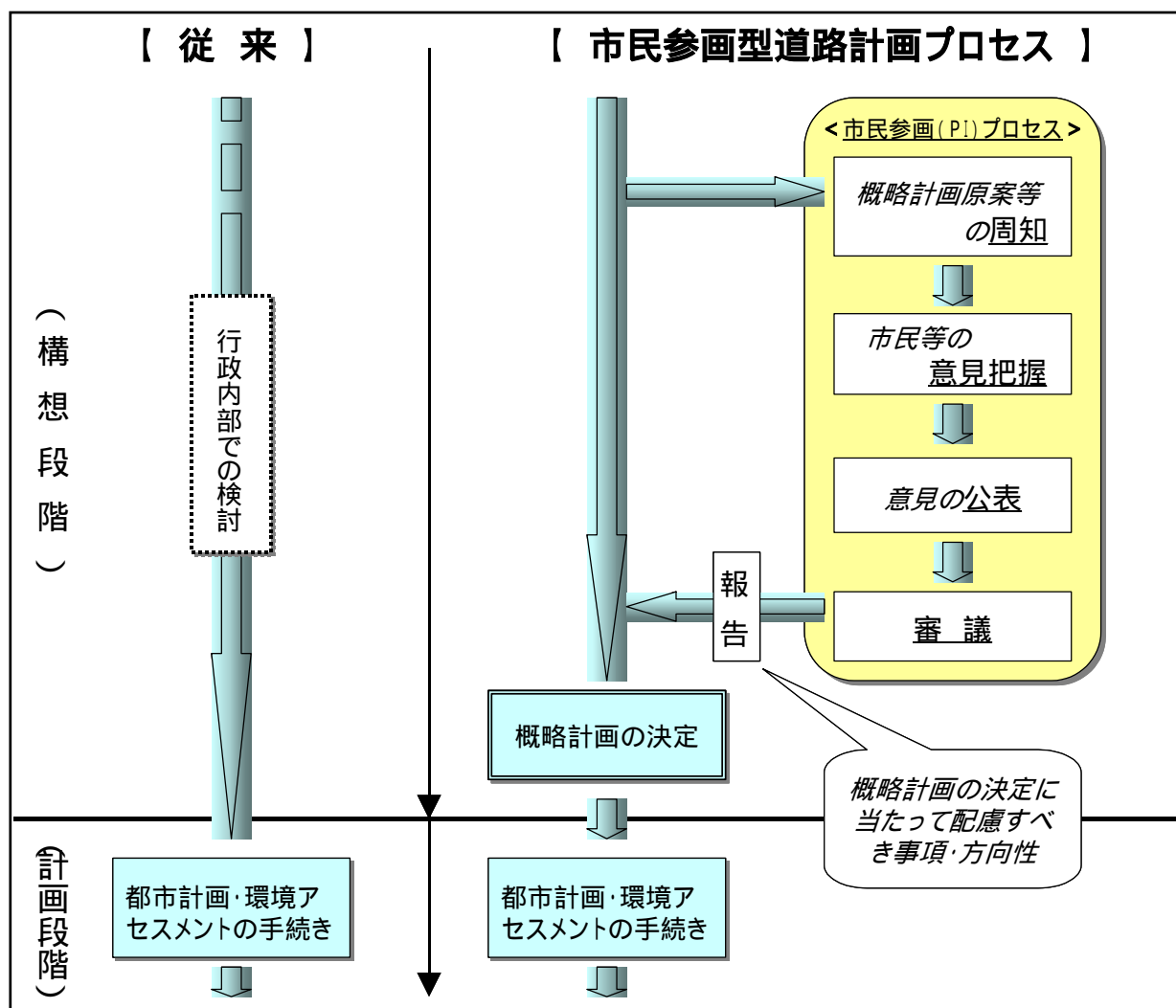


図 - 構想段階における市民参画型道路計画プロセス

2. 市民参画型道路計画プロセスの制度化

「道路計画合意形成研究会」の提言を受け、現在、市民参画型道路計画プロセスの制度化に向けて検討中。

この市民参画型道路計画プロセスのポイントは、以下のとおり。

新たに概略計画を定義し、詳細計画を区別した道路計画プロセスの明確化

- ・ 概略計画： 総合的な視点から方向性を示した、詳細計画の前提となる計画。
(詳細計画： 個別の利害調整を踏まえた、事業の前提となる計画)
- ・ 政策的要素、技術的要素、市民意見を踏まえた総合的な判断要素にもとづく決定。
- ・ これらの判断要素を明らかにする検討プロセスおよび市民参画プロセスの明確化。

市民参画プロセスの導入

- ・ 概略計画の段階に、市民等との双方向コミュニケーションをルール化(市民参画プロセス)。
- ・ 第三者の公正な審議にもとづく、概略計画や市民参画プロセスへの助言・提案。
- ・ 時間管理概念を導入し、無益な遅延を防止。

代替案比較を含む検討プロセスの明確化

- ・ 「整備しない案」も含む代替案との比較によって計画案を検討。
- ・ 交通面の効果・影響だけでなく、環境、市街地、経済面の効果・影響も総合的に評価。

新たに道路計画の手続きを明確化し、試行実施

- ・ 主に構想段階にある全ての高規格幹線道路を対象に適用。
- ・ 用例を重ねて法制化へ。

< 市民参画 (PI) プロセス >

(県、市町村などが協力して実施)

コミュニケーション活動

< 内容 > 代替案・進め方の周知、市民等の意見把握、意見の公表 など

< 方法 > 説明会方式、アンケート方式 など

市民等

〔地域住民・企業
道路利用者など〕

コミュニケーション活動
に関する評価・助言

有識者委員会等

～ 審議内容 ～

計画の必要性等
代替案・評価指標の修正
代替案の評価

(計画決定にあたって配慮すべき事項、方向性) など

計画決定にあたって配慮すべき事項、方向性

報告

道路管理者

～ 概略計画のたたき台～
現状の課題と計画の目的・必要性
代替案と評価項目
代替案と評価指標

概略計画の決定

都市計画・環境アセスメントの手続き

構
想
段
階

計
画
段
階